

## 特集

## ボランティア・ティーチャー

ボランティア・ティーチャー  
大歓迎

～地域とのふれあいを求めて～

多くの目と  
手で育てよう！

校長 竹澤 吉助

算数に限らず、ボランティア・ティーチャー（以下、ボランティア）の導入を積極的に進めている理由の第一は、専門性を生かした授業の効果が非常に高い点です。例えば、クラブ活動の卓球や茶道では専門家の指導のもとで、その優れた技術や知識を直に学んでいます。また、家事のプロである母親が家庭科の調理の授業で各班に一人ずつ付けば、危険でやれなかった揚げ物などの人気メニューも可能になるのです。

第二は、心の教育の効果です。家庭でも学校でも、大人と子供が長く接していると、互いに甘えが出てきます。ついにはどちらが親で子供か、誰が生徒か先生か分からないようになるなど、上下関係の逆転が見られます。

しかしボランティアと子供たちとの間には適度な緊張感があり、「親しき仲にも礼儀あり」の敬意をもって教え、教えられる関係が保たれます。算数を始めとして、どのボランティアも子供たちから尊敬と感謝をもって受け入れられ

ています。

茶道クラブの白根宮子さんは、教室入口に脱ぎ散らかされた上靴を見て、初めに教えました。

「お茶は、お客様をもてなす心を学ぶものです。後からお出でになる方のために、靴は正面を空けて脇の方に揃えて置くのですよ」子供たちはすぐに従いました。卓球クラブでも仲間への感謝の心とその表し方を学びました。

このように子供たちが教師でも親でもない、年齢も職業も人柄も様々な大人たちと接することは、人との関わり方を学ぶ良い機会です。また、ボランティアも授業を通じて子供たちと親しくなれば、いつでも気軽に声をかけ、時には真剣に叱ることもできるようになります。昔はごく自然にしていたことですが、これが地域の教育力と言えるものでしょう。

第三は、教師にとって良い刺激になることです。ボランティアとともに子供たちの興味関心や学ぶ意欲を高めるように授業を工夫する。それは、ともすれば独善に陥りがちな教師の指導の幅を広げる良い研修になるのです。

ボランティア大歓迎！大切な子供たちを、できるだけ多くの目と手で育てましょう。

## 私達がお手伝いしています

六年生担当 山内 千秋

娘に「お母さんの事が心配で、私授業に集中できない。」と言われてまた反対されながらスタートしたボランティア・ティーチャーです。私の担当は六年生で、お手伝いの内容はプリントの「まるつけ」ですが、子どもたちは何回か答えを直し、最後に百点になるととても喜びます。その姿を見ると、私も一緒に嬉しくなりますし、この理解する喜びを感じる事で次もまた頑張ろうという意欲につながれたいと思います。ボランティア・ティーチャーとして、子どもたちの手助けをするという立場にありますが、どちらかといえば自分自身が子どもたちとの関わりを楽しんでいる部分もあります。このよ

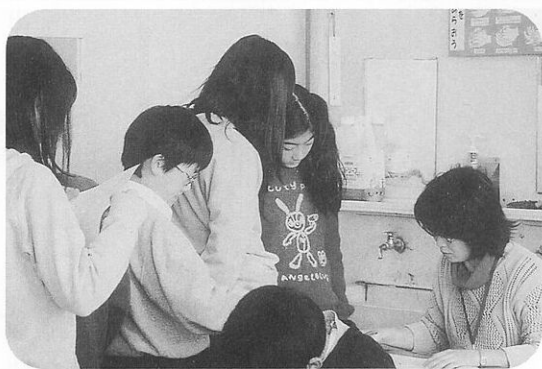
六年生担当 佐藤可奈子

日頃、我が子はどんな学校生活を送っているのだろうかとか心配に思っていたのですが、ボランティア・ティーチャーを始めて、普段の学校・先生・子ども達の姿を垣間見る事が出来たことは、そんな心配も少し解消出来た様に思います。初日、授業に臨むまでは「私にも出来るのだろうか。」と不安

うな機会を与えていただいた子どもたちと横橋先生に感謝し、短い期間ではございますがよろしくお願い致します。



でいっぱいだったのですが、子ども達の頑張っている姿、真剣な眼差しは「私も頑張らなくちゃ。少しでも子ども達を助けてあげたいな。」そんな前向きな気持ちに変えてくれました。これから、どれ程の役に立つのかわかりませんが、この機会を大切に、できるだけのお手伝いをしていきたいと思いがら、次回、子ども達に会うのを楽しみにしている今日この頃です。



### 六年生担当 大和田景湖

一発百点の時の笑顔、一問間違いの時の惜しい表情・スキル中の真剣集中の顔、算数四十五分間の中で色々な表情を見せてくれる生徒達。毎回楽しみに教室に向う。自分の分からない所が「分からない」と言える授業は、ボランティア・ティーチャーの目には、生徒達にとって苦痛なものではなくなっている様に見える。

少人数クラスが実現しない現況の中で、基礎学力回復の意味では、習熟度別授業が生徒達にとっても教師にとっても有効だと思われる。それが生徒間格差を埋めることにつながればと期待する。



### 四年生担当 長内 理恵

「わかる」ことで勉強は楽しくなると思います。短い期間ですが、算数がもっともっと好きになれるよう、微力ながらお手伝いできればと思っています。

何よりも、日常の子ども達の姿に触れるという、貴重な体験ができますので多くの保護者の方にも是非参加していただきたいと思います。



### 三年生担当 小林加代子

ボランティア・ティーチャーの日は朝の家事のスピードアップ間違いなし。こんな種類の楽しい事初体験。何十年振りて授業を受けた事か？藤田先生の授業の世界に入り込み、「小林先生にマルを付けてもらってね。」の一言で我に返り現実に戻るといった感じ。自分の立場を思い出し子ども達に圧倒されながらのマル付け。初日から「小林先生ここ教えて下さい。」と寄って来てくれる愛すべき子ども達。願わくば、他の学年、他の教科、授業の世界へ入ってみたい。

### 三年生担当 高橋多恵子

二人の子どもを通して学校の委員、子ども会の役員をして学校や保護者、地域の子とも達と関わって来ましたが、仕事を始め学校や地域と関わる時間が取れなくなり、物足りなさを感じていた時にこのお誘いの電話を頂き、私で大丈夫？という不安もありながら子ども達の勉強の手伝いをさせて頂く事にしました。いざ始めてみると、子ども達の熱意が伝わってきます。プリントの採点では私の丸付けが

### 三年生担当 島貫知賀子

私の席は、子ども達の一番後ろです。採点作業の時、後ろから子どもの席を回って、授業内容が理解できているか確認する為です。

約3ヶ月も学校に通っていると子ども達ともだいぶ顔見知りになり、ノートを覗き込んでも隠す動作もなくなりました。

これから、もっともっと子ども達と親しくなって、先生から教わり理解できた喜びを子どもと共にわかち合えたらいいなと思います。私にとってのボランティア・ティーチャーは、楽しみの一つになっています。



追い付かない行列が出来てしまうほです。中には「高橋先生が来てくれているから算数の授業がもっと楽しくなった。」と嬉しい事を言ってくれる子どももいます。少しでも子ども達の役に立てている事を嬉しく思っています。ボランティア・ティーチャーになって、授業参観では分からない授業の進め方、間違った時の教え方、休み時間の子ども達の過ごし方等家庭での会話も増えました。今回の事は子ども達にとっても私にとっても本当にいい経験になったと思います。

保護者の皆さんも、ボランティア・ティーチャーとして、先生や子ども達と、学ぶ喜びを味わってみませんか！